

単元名

日本の姿

1 単元のねらい

日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観させることを通して、周辺の海洋と国土を構成する島々の位置や日本の地域構成に見られる課題を主体的に追究させ、多面的・多角的に考察、表現できる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国土の位置、世界各地との時差、領域の範囲や変化とその特色などを基に、日本の地域構成を大観し理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にここで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

●学習改善につながる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5	6 単元のまとめ
知識・技能	●	●		●	●	
思考・判断・表現			○			○
主体的に学習に取り組む態度	●					○

3 単元構造図（全6時間）☆獲得する認識

単元名

日本の姿

単元学習前の生徒の認識

第1章で世界の国々は6州に分けられることや地球上の位置を緯度・経度で表せることが分かった。日本には、どんな特色があるのだろう。

第1時 日本の位置【●主体的に学習に取り組む態度 ●知識・技能】

地球儀や世界地図を使うと、日本の位置はどのように表せるのだろう。

☆海洋国(島国) ☆緯度 ☆経度

世界における日本の位置を調べていくと、日本は「ユーラシア大陸の東に位置している」、「太平洋の北西部に位置する海洋国(島国)」のように説明できたり、緯度・経度を使うとより日本の位置を正確に表すことができたりすることが分かった。

第2時 日本と世界の時差【●知識・技能】

世界の国々の時刻や時差は、どのように決められているのだろう。

☆標準時子午線 ☆標準時 ☆時差

世界の国々の時刻は、イギリスを通る本初子午線を基準に決まっていることが分かった。また、経度15度で、1時間の時差が生まれることもわかった。イギリスと日本の経度差が、135度で9時間の時差であるように、経度差を地図から読み取れば、2国間の時差を求めることができる。

第3時 日本の領域の特色【○思考・判断・表現】

なぜ日本は沖ノ鳥島を300億円かけて工事を行ったのだろう。

☆日本列島 ☆領土 ☆領空 ☆領海 ☆領域 ☆排他的経済水域

沖ノ鳥島はとても小さな島だが、この島が一つあるだけで日本の国土以上の経済水域を得ている。政府が300億円ものお金を使って沖ノ鳥島を工事したのは、この経済水域を守り、水産資源や鉱産資源の確保をするためだということがわかった。漁業がさかんな日本にとっては、経済水域があることは大きいと思う。

第4時 北方領土・竹島と尖閣諸島【●知識・技能】

領土をめぐる問題をかかえる島々は、どのような地理的特色を持っているのだろう。

☆北方領土 ☆竹島 ☆尖閣諸島

海洋国である日本には、となり合う国々と領土をめぐる問題があることが分かった。日本固有の領土であるそれぞれの島々は、となり合う国々との国境線に近くに位置していて、豊富な漁業資源に恵まれていたり、海底の地中からは豊富な鉱産資源が採れたりする可能性があることが分かった。それを確保したいと考えているから周辺の国々が、領土の主張をしているのだと分かった。

第5時 日本の都道府県【●知識・技能】

都道府県の境界や県庁所在地はどのように定められているのだろう。

☆都道府県 ☆県庁所在地

日本の都道府県の境界は、山脈や河川などを利用していることがわかった。また現在の都道府県はむかしの国の境界をそのまま利用したり、城下町や港町として発展してきた歴史ある都市が県庁所在地になったりしていることが分かった。

第6時 日本の都道府県クイズ「上級編」を作ろう【○主体的に学習に取り組む態度 ○思考・判断・表現】

日本の都道府県クイズ「上級編」を作ろう

単元学習後の生徒の認識

地球儀や地図帳を利用して学習を進めて、日本は多くの島々で構成されていることや海洋国としての領土に関わる問題があることも分かった。世界各地の人々は、どんな環境でどのような生活をしているのだろう。

日本はどのような姿をしているのだろう。

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	資料および留意事項
1 日本の位置	地球儀や地図を使って日本の位置を調べる活動を通して、経度と緯度、方位に着目して捉え、理解するために単元を貫く課題を立て、主体的に追究することができる。 ★海洋国(島国) ★緯度 ★経度	<p>1 日本の位置をどのように説明するかを考え、課題化する。</p> <p>地球儀や世界地図を使うと、日本の位置はどのように表せるのだろうか。</p> <p>2 日本の四方の海や国を確認する。</p> <p>3 日本の形、範囲について地図帳から調べ、交流する。 ・北海道、本州、四国、九州の主たる島々から構成され弓の様な形をしている。 ・東経 122 度から 154 度、北緯 20 度から、46 度の中にある。南北に長い国だ。 ・同じ経度の国はオーストラリア、同じ緯度の国は、中国やイランがある。</p> <p>4 沖ノ島島や南鳥島、北方領土などの離島や同時刻のNYと東京の写真を提示し、単元を貫く課題を設定する。 ・同じ時刻に撮影しているのに、札幌市の方は、日が沈んでいる。なぜこのようなことがおこるのだろうか。 ・日本にはたくさん小さな島があるみたいだ。 《単元を貫く課題》</p> <p>日本はどのような姿をしているのだろうか。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>世界における日本の位置を調べていくと、日本は「ユーラシア大陸の東に位置している」、「太平洋の北西部に位置する海洋国(島国)」のように説明できたり、緯度・経度を使うとより日本の位置を正確に表すことができたりすることが分かった。</p>	緯度や経度を利用してしながら日本が世界の中でどのような位置にあるか理解している。 態度＝授業の様子 知識＝資料読み取りの様子	◇教科書、地図帳の各資料 「日本の範囲はどこまでか」と発問することで、4島以外の小さい島々によって範囲が広がっていることに気付くことができる。
2 日本と世界の時差	地球儀や世界地図を活用して日本とイギリスの時差を調べる活動を通して、日本の方が朝を早く迎えることに気づき、経度差を活用して、時差の求め方を理解することができる。 ★標準時子午線 ★標準時 ★時差	<p>1 同時刻のNYと東京の写真を比較し、課題化する。</p> <p>世界の国々の時刻や時差は、どのように決められているのだろうか。</p> <p>2 地球上の時間の表し方の基本的な内容を確認する。 ・地球の自転：1周24時間 ・日本の標準時：兵庫県明石市東経135度 ・イギリスの標準時：ロンドン経度0度</p> <p>3 課題に対する自分の考えをまとめ、交流する。 ・地図を見ると、イギリスと日本の経度の差は135度。この差が、時差となるのだ。 ・地球は360度を24時間で回るから1時間あたりは15度になる。 ・$135 \div 15 = 9$時間になる。 ・地球は西から東の方角に自転するから、日本の方が早く進んでいる。</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>世界の国々の時刻は、イギリスを通る本初子午線を基準に決まっていることがわかった。また、経度15度で、1時間の時差が生まれることもわかった。イギリスと日本の経度差が135度で9時間の時差であるように、経度差を地図から読み取れば、2国間の時差を求めることができる。</p>	地球儀や地図の中から経線に着目し、二国間の経度の差を読み取り、時差をどれだけであるかを計算の仕方を理解している。 知識＝経度の読み取りと時差の計算	◇地図 ◇東京が1月1日午前9時のときのロンドン ◇地球儀 ◇時差の調べ方 本初子午線と東経135度の経線を地図上に記入し、経線に着目できるようにする。

<p>3 日本 の領域の 特色</p>	<p>沖ノ鳥島を300億円かけて工事を行った理由を考える活動を通して、日本の領域や経済水域の広さに気づき、沖ノ鳥島を守るために高額な費用をかけている理由は経済水域と日本の水産資源確保をしようとしたいからだと考えることができる。</p> <p>★日本列島 ★領土 ★領空 ★領海 ★領域 ★排他的経済水域</p>	<p>1 極端の島々を確認し、沖ノ鳥島の写真を提示して本時の課題をつくる。</p> <p>なぜ日本は沖ノ鳥島を300億円かけて工事を行ったのだろう。</p> <p>2 課題に対する自分の考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本は他国と比較すると経済水域がとても広い。経済水域の鉱産資源や水産資源を得られるので、守ろうとした。 もしもこの島がなくなってしまうたら日本の領土に匹敵する経済水域を失ってしまい漁獲量も減ってしまう。 沿岸で漁業ができるのは、効率的であるから日本には経済水域が必要なのだ。 <p>3 領域の意味を理解させ、領土問題で争っている地域を取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北方領土や竹島などが隣国と領土問題になっている。島を領土とすることはそれだけ意味が大きいということだ。 <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>経済水域の利益について、海洋国家であることに着目しながら、多面的・多角的に考察し、その過程を表現している。</p> <p>思考＝話し合いの様子</p>	<p>◇日本の領域と経済水域 ◇主な国の領海・経済水域と領土の面積 ◇領土・領海・領空の区分 ◇日本の領土返還の歴史と北方領土 ◇竹島 ◇尖閣諸島 「日本は漁獲量が多いのだろうか」と発問し、日本が海洋国家であることに着目させて、経済水域の利益に気づくようにする。</p>
<p>4 北方領土・竹島と尖閣諸島</p>	<p>竹島、北方領土、尖閣諸島の位置と、地域的特色、どの国との問題を抱えているかを理解することができる。</p> <p>★北方領土 ★竹島 ★尖閣諸島</p>	<p>1 竹島や北方領土、尖閣諸島の位置を理解し、課題化する。</p> <p>領土をめぐる問題をかかえる島々は、どのような地理的特色を持っているのだろう。</p> <p>2 竹島や北方領土、尖閣諸島について、どこの国と領土をめぐる問題を抱えているのか、理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹島…大韓民国が不法占拠 北方領土…ロシアが不法占拠 尖閣諸島…中華人民共和国と台湾が領有権を主張 <p>3 それぞれの領土問題の背景には、それぞれの島々にどのような地理的特色があるのか、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 竹島…潮目、豊富な漁業資源 北方領土…豊富な自然環境や大陸棚の豊富な漁業資源 尖閣諸島…周辺大陸棚に石油 <p>4 本時のまとめをする。</p>	<p>竹島、北方領土、尖閣諸島の位置や特色、領土をめぐる問題の存在について理解している。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇教科書、地図帳の各資料</p> <p>それぞれの島をめぐる問題はどこの国との間で起こっているのか確認させる。</p> <p>それぞれの地域が豊富な資源を持っていることに気付かせる。</p>
<p>海洋国である日本には、となり合う国々と領土をめぐる問題があることが分かった。日本固有の領土であるそれぞれの島々は、となり合う国々との国境線に近くに位置していて、豊富な漁業資源に恵まれていたり、海底の地中からは豊富な鉱産資源が採れたりする可能性があることがわかった。それを確保したいと考えているから周辺の国々が、領土の主張をしているのだとわかった。</p>				

<p>5 日本 の都道府県</p>	<p>現在の都道府県の成り立ちや境界線について調べる学習を通して、地形を利用したむかしの国の境界をそのまま利用している場合が多いことを理解することができる。</p> <p>★都道府県 ★県庁所在地</p>	<p>1 明治以降の都道府県の配置の変遷から、本時の課題を作る。</p> <p>都道府県の境界はどのように定められているのだろう。</p> <p>2 岐阜県と隣県の境界を調べる。 ・長野県との境界は飛騨山脈。 ・愛知県との境界は、木曾川。</p> <p>3 学習活動②と資料をもとに、課題に対する自分の考えを交流する。 ・岐阜県と他県との境界でもわかるように、河川や山脈などの地形が利用されている。 ・江戸時代の国の境界と比較すると、岐阜県は美濃と飛騨が合わせてできた都道府県がある。</p> <p>4 むかしの国名が使われていることをとらえる。 ・地名や特産品名に残り、私たちの生活に根付いているのだ。</p> <p>5 本時のまとめをする。</p> <p>日本の都道府県の境界は、山脈や河川などを利用していることがわかった。また現在の都道府県はむかしの国の境界をそのまま利用したり、城下町や港町として発展してきた歴史ある都市が県庁所在地になったりしていることがわかった。</p>	<p>地図を活用して都道府県の境界が自然の地形を利用したものであることを地図から読み取り、理解している。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇和歌山県北山村の地図 ◇岐阜県付近の境界(地図) ◇江戸時代の区分 ◇明治時代の区分</p> <p>県境の写真などを補足で用いて、地図上の地形に着目できるようにする。</p>
<p>6 日本 の都道府県クイズ「上級編」を作ろう</p>	<p>学習内容の振り返りを思考ツールを活用してまとめる活動を通して、日本の地域構成を多面的・多角的に捉え、主体的に単元のまとめをすることができる。</p>	<p>1 これまでの学習を振り返り、思考ツールのベン図やクイズカードを作成することを伝え、課題化する。</p> <p>日本の都道府県クイズ「上級編」を作ろう</p> <p>2 学習班で、ベン図を作成する。</p> <p>3 作成したベン図をもとに、都道府県クイズ上級編カード・ヒントカード①～③を作成する。</p> <p>4 作成した都道府県クイズ上級編カードを使って、クイズの出し合いをする。</p> <p>5 拡大した日本の略地図に、都道府県カードを置かせる。</p> <p>6 47都道府県に関するさまざまなヒントから、日本の位置や分布などについて、どのような特徴があるかをグループで話し合わせ、クラス全体で交流する。</p> <p>7 単元を貫く課題について自分の考えをまとめる。</p> <p>日本の姿は、位置に着目すると「47都道府県のほとんどが、7地方のすべてが海に面している」、分布に着目すると「47都道府県は、南北3000kmの範囲内に広がっている」ということがわかった。このことから、日本の姿は「周りをすべて海に囲まれた、南北に細長い、海洋国である」と捉えることができる。</p>	<p>これまで学習してきたことを多面的・多角的に考察しながら、ベン図にまとめ、クイズカードを作成する活動に主体的に取り組んでいる。</p> <p>態度＝ベン図とクイズカード 思考＝単元のまとめ</p>	<p>◇教科書、地図帳の各資料 ◇拡大した日本の略地図 ◇47都道府県のヒントを書かせるワークシート（ベン図・ヒントカード）</p> <p>教科書「探究のステップ」を活用し、導入で使った都道府県もふくめて、考えさせる。</p> <p>日本の位置・時差・領域・地域区分などの特徴について、分布に着目して考えさせる。</p>